

第5章

作物別の振興方針と経営類型

- 1 作物別の振興方針
- 2 目指すべき経営類型
- 3 地区ごとの農業振興方針



消費者の意見やニーズを捉えた農産物生産と環境に配慮した農業への取り組みを基本に、地域特性を活かした販売力の高い品目・品種の導入、新たな技術の導入等を進め、「儲ける力」を高めます。新たな品種についても積極的な導入に努め、早期産地化や安定生産を目指します。また、高収益作物の導入、加工・業務向けの契約栽培の推進等による農業所得の向上や農作業のICT※、AI※の活用など労働生産性の向上を進めます。

また、安全で安心な食料供給と環境にやさしい農産物を求める消費者ニーズに対応した特別栽培、有機栽培の生産拡大を推進し、食品安全、労働環境、環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践するGLOBALG.A.P※に取り組めます。

1 作物別の振興方針

1) 土地利用型作物（米・麦・そば・大豆）

消費者や実需者が求める食味や品質、加工適性などニーズに沿った穀物生産（米・麦・大豆・そば）が重要なことから、生産者団体など関係機関・団体と連携を図り、需要に見合った作付拡大や品質向上などを進めるとともに、水田農家の再生産が確保できるように収益性の向上を進めます。

将来にわたって水田農業を担う経営体を確保するため、実需者・消費者ニーズの高まっている品種のブランド確立を進めながら、戦略的な生産拡大により、担い手経営体における所得向上（儲ける力の向上）を図ります。

また、計画的な米生産を基本に、米の品質向上や新たな作物の試作、野菜等の園芸作物の導入による経営の複合化、麦・大豆・そば等の生産拡大・定着の取組に対して支援し、特色ある産地づくりを目指す水田フル活用ビジョンの具現化を図ります。

さらに、次世代を担う農業者等が実施する、施設整備や高収益作物・栽培体系への転換を図る取組を総合的に支援し、攻めの農業の展開に向けた経営体質や生産体制の強化を図ります。

(1) 米

需給見通し等を踏まえた計画的な米の生産を基本に、競争力のある効率的な経営体が主体となった持続性の高い生産構造を実現するため、野菜等の園芸作物の導入による経営の複合化や生産コストの削減などにより収益力の向上を図るとともに、新たな品種の導入をはじめ、食味・品質ともに優れた高品質な米の生産を推進します。

種子は、採種ほ場において生産が行われています。これら採種ほ場の管理については、種子生産者の巧みな技術と長年の経験によって支えられているため、一層の安定供給を目指します。

酒米は、品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率や作況等のデータを参考にしつつ、これまでの販



売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要です。

転作作物としての加工用米については地元需要に対応した生産体制を具現化します。



(2) 麦・そば・大豆

機能性や加工適性等に優れた品種の導入により生産を拡大するとともに、基本技術の励行等による安定生産と品質向上により、実需者の期待に応える産地づくりを進めます。

特に、そばについては、原種の生産地として安定生産に努めます。



(3) 到達目標

- ・地域の水田農業を担う意欲的な大規模稲作経営体等への農地の集積・集約化により規模拡大を進め、個人経営体6ヘクタール以上、組織経営体80ヘクタール規模以上の効率的な経営体が地域の中核となった生産を目指します。
- ・水稻を主体に、そば・麦・大豆等を組み合わせた栽培体系や、加工・業務用野菜等の園芸品目の導入などにより、収益力の向上と労働力の平準化を進め、生産工程の最適化や省力化技術の導入などによるコスト削減により、高収益な水田農業の展開を目指します。
- ・「コシヒカリ」の生産を基軸としながら、消費者・実需者ニーズに即した独自性・強みを持つ新たな品種として「風さやか」等の生産拡大を進め、高品質な飯島米ブランドの定着を目指します。

加工用米については、地元需要に対応した生産体制を確立します。

また、「そば・麦・大豆」は、実需者ニーズを踏まえた品種導入と安定生産・供給を図り、実需者との結び付きの強化を目指します。

- ・特別栽培米（越百黄金）は、安全で安心な食料供給と環境にやさしい農産物を求める消費者ニーズに対応した生産拡大を推進します。併せて有機栽培米の生産拡大についても推進し、町全域が自然と共生する栽培を目指し、1000ヘクタール環境共生農場の実現を図ります。

(4) 達成指標

項目	2020年度 現状	2030年度 目標	項目設定の考え方
効率的な水田農業 経営を行う経営体 数とその面積割合	8経営体 2.5%	10経営体 5%	競争力のある経営体が主体となっ た水田農業を推進するため、効率 的な生産が可能な個人経営体6ha ・組織経営体80ha規模以上の経営 体を育成する。
米の生産面積	494.21ha	490ha	コシヒカリを主軸に特別栽培米の 推進とスマート農業※の促進を図る。
そばの生産面積	97.03ha	50ha	原産地生産地の継続を促進する。
麦の生産面積	32.48ha	40ha	県オリジナル品種の推進を図る。
大豆の生産面積	13.19ha	20ha	県オリジナル品種の推進を図る。
加工用米の生産面積	0ha	100ha	町内企業と連携し生産拡大を促進 する。

(5) 具体的な施策展開

- ・ 経営を安定的に維持・発展させていくため、農地の利用集積・集約化により、低コスト生産が可能な個人経営体6ha以上、組織経営80ha規模以上の経営体が地域の中核となるよう、効率的な水田農業経営を推進します。
- ・ 集落営農組織や雇用労働力を有している法人などの経営体を中心に、生産者団体との密接な連携により、機械化体系が可能な加工・業務用野菜（たまねぎ、キャベツ、トマトなど）の導入や、育苗ハウスの後利用による園芸作物の導入による経営の複合化を進め、収益性の高い経営体質への転換を支援します。
- ・ 加工用米の生産は、地元需要に対応した生産量の確保を図ります。
- ・ そば・麦・大豆については、基本技術の徹底による収量アップや品質の向上を推進し、競争力の向上を図ります。
- ・ ICT※やAI※の活用・導入などにより、省力化・品質向上を進めるとともに、収益力の強化を図ります。
- ・ 特別栽培米（越百黄金）の生産拡大と適正施肥の励行、胴割米・斑点米等の防止対策の徹底等による高品質米の生産を推進し、ブランド力の向上を図ります。
- ・ 農産物販売、農業生産資材の購入等多様な販売・購入チャンネルの開拓による経営の安定化を促進します。

2) 花き

高収量・高品質生産に向けた生産技術、需要期に確実に出荷するための開花調節技術、施設化の推進等により産地としての力量を高めて、実需者の要望や期待に応えます。また、多様化する花の用途や需要動向に対応した用途別生産体制の導入、鮮度保持対策の推進、花の地元消費を一層確保するため、農産物直売所を活用し周年供給体制の確立等を進めます。さらに、多様な分野における花きの活用を進め、新たな需要創出を図ります。

特に、施設型は事業承継を積極的に進め、露地については、ユリを中心に生産拡大を推進します。

(1) 切花

アルストロメリア、トルコギキョウ、カーネーション、ナデシコ、バラ、新鉄砲ゆり

(2) 鉢花

シンビジウム、シクラメン

(3) 到達目標

- ・ 高冷な地を生かし鮮やかな色彩と高い品質を誇る町内産花きが評価され、競争力の高い花き経営を進めます。
- ・ 実需者ニーズに対応した用途別生産と、立地条件を活かした豊かな品目振興及び計画的な出荷により、実需者の期待が高まり、多様な需要を喚起できるよう努めます。



(4) 達成指標

単位：a,%

項目	2020年度現状	2030年度目標	対比	項目	2020年度現状	2030年度目標	対比
アルストロメリア	338	380	112	ユリ	400	600	150
カーネーション	125	150	120	シンビジウム	214	200	93
ナデシコ	69	70	101	シクラメン	195	200	103
バラ	129	130	101	アスター	37	40	108
トルコギキョウ	14	25	179	その他草花花木	260	300	115

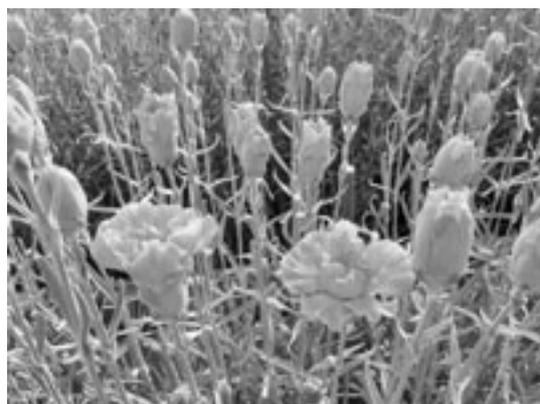


(5) 具体的な施策展開

- ① 高収量・高品質化及び適期出荷対応技術を活かした「儲ける」生産技術の導入・普及
農家の高齢化等により当町の花きの生産が減退しているなか、基本技術の改善を図るとともに、需要に対応した計画生産、省力・低コスト化の推進等により、生産性と収益性の向上を図ります。

● 共通

- ・ 開花調節技術等、需要期ピークに出荷できる生産体制の整備と収益性の向上を図ります。
- ・ 環境制御を複合的に取り入れることにより、長期切り作型の導入を進めます。
- ・ 栽培技術と施設・資材等を効果的に組み合わせた、総合的な高温対策を推進します。
- ・ 施設化の推進と効率的な補助加温設備（ヒートポンプ等）による省エネルギー化を推進します。
- ・ 省力品種の利用や定植・防除等の省力機器・設備類の導入等による省力化を推進します。
- ・ 良質堆肥の積極的な投入や土壌物理性の改善による土づくりを推進します。
- ・ 土壌消毒の徹底による土壌病害対策の実施を推進します。
- ・ 適正な栽培管理と切り前及び品質保持剤使用による日持ち性の向上を進めます。



● アルストロメリア

- ・ 適品種と地中冷却や炭酸ガス施用等複合環境制御技術を組み合わせた収量の増加と品質の向上、長期出荷体制の確立を図ります。
- ・ 高温期の適切な株管理やチラー（冷却水循環装置）等を用いた地温管理による年内出荷量の拡大を促進します。
- ・ 夏期出荷の需要に応じた茎葉管理技術の確立を進めます。
- ・ ヒートポンプや効果的な保温資材の導入等による暖房コストの削減を図ります。
- ・ 適期改植と株養成の充実による生産力の強化を促進します。

● トルコギキョウ

- ・ 高温対策と開花調節技術を組み合わせた秋出荷作型の拡大を図ります。
- ・ 労力に見合った作付け計画の作成と芽整理、花蕾整理、適正切り前の徹底を図ります。
- ・ 用途に応じた品種選定と栽培技術の確立を促進します。
- ・ 地域オリジナル品種の作付けを推進します。
- ・ 土づくりと土壌病害対策、適正なかん水・施肥管理の徹底を図ります。

● カーネーション

- ・ 6月～11月の安定供給に向けた出荷量の確保を進めます。
- ・ 仕立て方法の見直しや切花ロスの削減による生産性の向上を図ります。
- ・ 土づくりの推進と総合的な高温対策による夏秋期の品質向上を図ります。
- ・ 実需者の用途に合わせた品種選定と作型・仕立て方法の設定を進めます。

● ナデシコ

- ・ 食べられる花（エディブルフラワー※）としての販路も視野に入れ、無農薬または低農薬栽培を進めます。

●バラ

- ・環境制御機器を活用した収量向上を図ります。
- ・市場性が高い品種の導入による収益性の確保を促進します。

●新鉄砲ゆり

- ・オリジナル品種を軸に、市販品種と組み合わせた長期安定出荷を図ります。
- ・東京盆、旧盆、秋彼岸の需要期に応える出荷、作付けを進めます。
- ・機械化の検討を進めながら、面積拡大、所得向上を目指します。

●シンビジウム

- ・病害対策等によるロス率の低減を図ります。
- ・産地オリジナル品種を生かした有利販売の展開を進めます。
- ・ハウスの回転率と出荷効率を上げるための品種検討を進めます。

●シクラメン

- ・ミニシクラメン、4寸は、省力品種や人気品種を活用しながら、鉢数を確保します。
- ・5寸、6寸は消費者ニーズに合わせた少量、多品種で販売価格の維持を図ります。

②多様なニーズに対応した花き生産の推進

実需者が求める商品を適時かつ継続的に出荷することで、業務・家庭用など多様化するニーズに細やかに対応するため、需要のターゲットを明確にした、用途別生産が重要です。また、主要品目を中心に品質・日持ち性など一層の商品力の向上を図るとともに、マーケット需要が高まっている品目や中山間地等の立地条件を活かした品目振興により、花きに対する需要の創出を推進します。

- 量販店向けパック花等用途別・規格別生産に対応した栽培方法の普及を進めます。
- 町内産花きの優れた特性や産地情報等の付加価値について、消費者に積極的に発信する取り組みを支援します。
- 消費の拡大を見据えた、学童への花育や福祉、観光業分野などにおける花きの新需要創出を図ります。
- 宿泊・公共施設での町内産花きによるおもてなしや、農産物直売所への花き品目の周年供給等により、身近に花があるライフスタイルの提案など花の地産地消を進めます。

③花き担い手の確保と経営の安定・強化

生産並びに経営管理能力の高い経営体を確保・育成するとともに、多様な花き経営体の事業承継を支援するため、生産者組織等の取り組みを活性化するように支援します。

- 病虫害防除等に先端技術の積極的な導入を推進します。
- 花き輪作、土壌消毒・有機物施用による土づくり等総合的な連作障害対策を進めます。
- 産地が有する「匠」の技術・知識を次世代が確実に引き継ぐ仕組みづくりを支援します。
- 生産者の経営安定を図るため、主要品目について効果的な支援策を実施します。

④環境にやさしい花き栽培の実践

花き類においても環境に配慮した生産が求められていることから、減農薬・減化学肥料等の生産技術や出荷技術の確立・普及を推進します。

- 農業生産工程管理（GAP）や総合的病害虫管理（IPM）の取り組みを積極的に進めます。
- 光利用、防虫ネット、紫外線カットフィルム等物理的防除の積極的な導入を推進・支援します。
- 発生予察に基づく効果的な防除を推進します。
- ほ場周辺や施設内の環境整備の徹底による微小害虫やウイルス病防除を推進します。
- 土壌診断、生育診断、養分吸収特性に基づいた効率的な施肥を推進します。

⑤花き文化の振興による新需要の創出

「花きの振興に関する法律」に基づき、花き事業に係る関係機関・団体が一体となり、消費者に向けて花きの魅力や花のある暮らしを積極的に発信するとともに、文化、教育、医療、福祉、観光業等の幅広い分野と連携して、花きの活用や花文化の振興を図ります。

- 花きの生産、流通、販売等の関係者が一体的かつ機能的に取り組む生産振興や消費拡大に向けた取り組みを促進します。
- 県内外で開催されるイベント等において、町内産花きの魅力発信や幅広い花きの活用を促進します。
- 催事や日常生活における花きの活用を促進します。
- 教育機関と産地、生花店、生け花団体等が連携した「花育」を推進します。
- 医療、福祉、観光業現場における花きの活用を促進します。

3) 果樹

果実の成熟期気温の大きな日較差、優れた栽培技術等、当町の果樹生産の強みを最大限に活かしつつ、適地適作を基本に、消費者ニーズに応じた品目・品種を選択し、さらなる栽培技術の向上を進め、販売戦略と連動させた生産体制を構築します。

特に、シヨナ・陽光の着色条件が悪い園地を中心に、県オリジナル品種を主軸に転換を進めます。

りんごの高密度植栽培や、気象災害を考慮した「シナノリップ」、種がなく皮ごと食べられるぶどう「ナガノパープル」などの県オリジナル品種を核として果樹経営の「儲ける」力を強化します。

また、生産力が低下した樹園地の改植を速やかに進めるとともに、気象変動に強い生産基盤の整備等により、果樹生産地として実需者から信頼される産地の維持・発展に取り組めます。

なし、もも、栗、柿、ブルーベリー、梅については、安定した収量・品質の確保に努めます。さらに、醸造用ぶどう、カシスの導入も積極的に推進します。

(1) 到達目標

① 県オリジナル品種等を活用した果樹産地の競争力強化

- 標高や出荷時期を踏まえ、計画的・戦略的に県オリジナル品種等優良品種の導入を図ります。
- りんごは、「つがる」「秋映」「シナノスイート」「シナノゴールド」「ふじ」を基幹とし、新たに「シナノリップ」の導入を推進します。
- ぶどうは「ナガノパープル」「シャインマスカット」等の皮ごと食べられる品種を中心に導入を推進します。
- なしは、「サザンスイート」の早期産地化を図るとともに、「南水」の高品質・安定生産を基にした出荷を推進します。
- ももは、「あかつき」「なつっこ」を主体とし、これらの前後に高糖度品種を導入することによりシリーズ化を推進します。
- 栗は、「信州伊那栗」を低樹高・超低樹高剪定方法を用い、「土づくり」から施肥、土壌管理などの栽培条件を徹底し、安全で安心な生産と産地化を促進します。
- 柿は、「市田柿」の低樹高栽培による省力安定生産と規模拡大が期待でき、密植により成園並みの収量が得られるまでの期間を短縮した栽培を促進します。併せてジョイント仕立てについても検討します。
- ブルーベリーは、ハイブッシュ系品種の導入による収穫期間の拡大、大果で良食味の品種導入など、消費者の多様なニーズに対応できる品種構成となるよう更新、新植を促進します。また、摘み残しが出にくいようコンパクトな樹形での管理を推進します。
- 梅は、生産者の高齢化により栽培面積の減少が見込まれますが、省力栽培を進め、梅加工品等の地域特産品化により、生産の安定を図ります。
- カシスはアントシアニンが豊富でビタミンCなど健康機能性の高い成分が多く含まれています。健康機能性が高い果実として、町内ではブルーベリーが栽培されていますが、カシスはブルーベリーよりこうした成分が多く、期待度が高く注目されています。中山間地域を中心に地域特産果樹として推進します。

② 収益性が高く省力的な果樹栽培の推進

- 省力化と生産性の向上等を同時に実現できるりんご高密植栽培、ぶどう平行整枝短梢せん定栽培については、適地適作を踏まえ積極的な導入を進めます。
- りんご新しい化栽培用フェザー苗の安定した品質の確保と生産量拡大への取組を推進します。
- なし栽培での省力化と高品質化を実現するなし樹体ジョイント栽培の導入に向けた研究を進めます。
- ももは、疎植低樹高仕立て栽培の検討を進めます。

③ 消費者の求める美味しいくだものを生産できる産地づくり

- 主要な樹種であるりんご、ぶどう、もも、なし等の基幹品種を中心として、基本技術の励行や土壌診断に基づいた有機物等の施用による土づくりにより、気候変動にも耐え得る高品質で高単収の生産を進めます。

- 「シナノスイート」は、需要に応じた適期出荷に対応できる産地化を促進します。
- 「シナノゴールド」は、適熟収穫による品質確保を推進するとともに、貯蔵施設の整備等により出荷の平準化・長期化を支援します。
- 「ナガノパープル」と「シャインマスカット」は、着色や房形を統一し、適期収穫により高糖度な良品生産を進めます。
- 醸造用ぶどうは、近隣のワイナリーと連携し、優良品種の導入等を支援します。また、新規参入者への支援を進めるとともに品質を高める栽培技術習得のための研修会等を開催します。
- 栗は、町内菓子工房と連携し品種の指定、収穫時期の限定等品質と鮮度の厳しい基準に基づいた「超特選栗」の産地化を進めます。
- 柿は、市田柿の生産が農家の負担増になっている現状から、農家の経営意欲を維持、増大させるような施策が必要です。農家はもとより、関係機関、行政が各々に役割を持ち、連携して対策を進めます。また、製品品質の高位平準化、衛生管理対策の徹底等ブランド化を図るため、農家組織による加工施設の集約化などを推進します。
- ブルーベリーは、果樹経営の複合化や多様な販売に対応する品目として、安定生産に向けた技術の向上を支援します。農業体験やグリーンツーリズム※、摘み取り園など、観光農園では収穫期間を長くするための品種構成に配慮し、受入れ体制の整備を図ります。また、直売所の活用や地元食品業者と連携した新商品開発の取り組みを支援します。
- 我が国においてカシスの需要は未だ大きいとはいえませんが、機能が注目を集める中で、東北を中心に生産は拡大しています。冷涼な気候を活かして青森県・岩手県を中心とした東北地域での生産が8割近くを占めています。現状での国産カシスの多くは、生産地域における加工特産品の原料として地場消費されています。当町のカシスは、複合品目の一つとして、食品メーカー等との契約栽培により安定品目として取り組みます。

④ 果樹経営基盤の安定

- 経営継続の意向調査を元に、経営の継続が困難な樹園地を一時的に管理し担い手に引き継ぐ受け皿組織の育成を進めます。
- 担い手経営体への樹園地集積や労力補完体制づくり等を進め、農業者が行う直売・加工・観光農園等の開設や他産業との連携等による6次産業化を支援します。
- 施設化、複数品目の組み合わせなどによる経営の複合化を地域の条件や経営規模に応じて推進します。
- 気象災害に備えるための果樹共済や収入保険への加入を促進します。

(2) 達成指標

・達成指標（栽培面積）

単位：a

項目	2020年度 現状	2030年度 目標	項目設定の考え方
りんご	2,000	2,200	早生種 シナノリップ 中生種 シナノスイート シナノゴールド 秋映 晩生種 ふじ の生産拡大をする。
なし	750	800	南水・サザンスイートの生産拡大をする。
ぶどう	70	340	シャインマスカット・ナガノパープル の生産拡大とワインぶどうの推進をする。
もも	30	100	あかつき・なつこの生産拡大をする。
栗	2,000	5,000	地元栗菓子業者と連携し生産拡大をする。
柿	100	250	長野県GI※に登録された地域特産物として 生産拡大をする。
ブルーベリー	170	1,250	観光農園による特産果樹として生産拡大 をする。
梅	50	50	省力栽培の推進と加工品の地域特産化の 推進をする。
カシス	0	500	健康機能性が高い果実として地域特産化 の推進をする。

(3) 具体的な施策展開

①りんご

・推進目標

単位：a,kg,%

項目	2020年度現状		2030年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
夏あかり	10	20	30	7,500	300	37,500
つがる	130	2,300	100	35,000	77	1,521
シナノレッド	40	90	60	15,000	150	16,666
シナノリップ	80	50	200	60,000	250	120,000
シナノスイート	300	28,000	300	114,000	100	407
シナノドルチェ	30	300	30	12,000	100	4,000
秋映	60	1,100	60	21,000	100	1,909
紅玉	40	6,500	40	12,000	100	185
シナノゴールド	50	1,800	50	20,000	100	1,111
ぐんま名月	30	1,000	100	30,000	333	3,000
王林	30	3,800	30	9,000	100	237
ふじ	1,200	66,000	1,200	480,000	100	727

●生産振興方針

令和12年度（2030年度）の栽培面積は、担い手の高齢化や他品目への改植などにより令和2年度（2020年度）対比で110%の22haを見込みます。また、生産量は、低位生産園の改植と新しい化栽培の導入を積極的に進めることにより、令和12年度対比576%の816tを見込みます。



生産振興にあたっては、早生品種「シナノリップ」、中生種「シナノスイート」、「シナノゴールド」、「秋映」などの県オリジナル品種や「ふじ」の優良着色系統への更新を継続するとともに、適期収穫の徹底等品質の向上を図り、ブランドの確立に努めます。

●県オリジナル品種の生産拡大と「ふじ」の位置付け

a 極早生から早生種

- ・「つがる」は、早生種の基幹品種として位置付けますが、着色不良地域では「シナノリップ」への更新を積極的に進めます。
- ・産地の中で最も早く成熟期を迎える地域特性を活かし、「シナノリップ」等の導入を積極的に推進します。

b 中生種

- ・「秋映」は、着色管理を省力化できることから、10月上旬を出荷の中心として、栽培面積の拡大を図ります。
- ・「シナノスイート」は、消費者や実需者の人気が高いことから、10月中下旬を出荷の中心として栽培面積の拡大を図ります。
- ・「シナノゴールド」は、長期間の貯蔵が可能であり販売期間の拡大ができることから、栽培面積の拡大を図ります。

c 晩生種

- ・「ふじ」は、りんごの主力として、新しい化栽培及び優良着色系統への更新により品質向上及び生産量の確保を図ります。また、12月に入っても出荷量を維持するとともに、年明け販売についても実需者と調整し、一定量の供給を図ります。
- ・「シナノホッペ」については、良好な着色と蜜入りをアピールするなかで、低暖地のふじの着色不良地域を中心に10月下旬から11月中旬出荷に向けた栽培の拡大を図ります。
- ・安定した結実対策の徹底、好適樹相への誘導、適正な着果管理などにより、斜形果、つる割れ等を軽減し、秀品率の向上を図ります。

●高密度栽培の推進

高密度栽培の推進にあたっては、省力化と生産性の向上及び早期成園化を目的とし、低樹高栽培又は、より高単収を目指す高密度栽培を、それぞれの目的に合わせて導入を進めます。

a M.9自根台木の確保

フェザー苗の生産に不可欠なM.9自根台木を確保するため、営農組織等による台木生産組織の育成や取り木ほ場充実のための取組を行い、供給量の拡大を図ります。

b フェザー苗生産計画

フェザー苗の生産については、良質苗を確保するためM.9ナガノ台木の供給を受けた種苗業者が中心となってフェザー苗を生産し、供給する体制を充実します。また、生産者団体等における自給的生産も併せて推進します。

なお、現在では、2年生フェザー苗を原則としているが、より安価に苗を供給するため、1年生フェザー苗の生産技術の検討も進めます。

c 高密度栽培の普及

生産されたフェザー苗を用いて積極的な改植を推進するとともに、指導指針の活用や技術研修会の開催等により、生産者の栽培技術の向上を図ります。

② なし

・ 推進目標

単位：a, kg, %

項目	2020年度現状		2030年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
南水	220	55,000	250	100,000	114	182
豊水	60	16,000	60	27,000	100	169
幸水	150	33,000	120	42,000	80	127
サザンスイート	10	0	50	17,500	500	—
二十世紀	220	70,000	200	110,000	91	157
あきづき	30	4,000	40	16,000	133	400
ラ・フランス	20	5,000	30	11,250	150	225
ル・レクチェ	30	4,000	40	16,000	133	400
オーロラ	10	100	10	2,500	100	2,500

●生産振興方針

令和12年度（2030年度）の栽培面積は、「二十世紀」を中心に他品種、他品種目への転換を推進することで令和2年度（2020年度）対比107%の7.7haを見込みます。生産量は、令和2年度（2020年度）対比183%の342 tを見込みます。

県オリジナル品種「南水」を核としてブランドを構築しつつ、「南水」の生産拡大にあたっては、その優れた貯蔵性を活用し、一定量は年末まで安定的に市場に供給します。また、条溝果やくぼみ果などの課題の解決に向けて原因究明を進めるとともに、省力栽培のための無袋栽培を進めます。

また、消費者からのニーズが減少し、価格が低下している「二十世紀」等は、「南水」やりんご、ぶどう等への転換を図ります。

県オリジナル品種「サザンスイート」については、食味の良さを活かし、「幸水」などからの転換を推進し、生産拡大に向けた取組を行います。



早期多収、省力栽培技術として、樹体ジョイント栽培を研究します。

西洋なしの令和12年度（2030年度）の栽培面積は、令和2年度（2020年度）対比133%の0.8haを見込みます。生産量は、令和2年度（2020年度）対比327%の30tを見込みます。品種については、「ラ・フランス」「オーロラ」等優良品種の維持に努めるとともに、産地予冷・追熟技術の徹底により、適熟品の供給を促進します。

③ ぶどう

・ 推進目標

単位：a, kg, %

項 目	2020年度現状		2030年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
シャインマスカット	10	500	70	11,200	700	2,240
ナガノパープル	3	100	100	15,000	3,333	15,000
クイーンルージュ	0	0	50	7,500	—	—
ピオーネ	4	500	4	720	100	144
藤稔	50	6,000	20	3,000	40	50
シャルドネ	0	0	50	5,000	—	—
メルロ	0	0	50	5,000	—	—

● 生産振興方針

令和12年度（2030年度）の栽培面積は、需要が堅調なことから令和2年度（2020年度）対比513%の3.44haを見込みます。生産量は、平行整枝短梢せん定栽培の積極的な導入等を進め、生産性の向上と高品質生産を目指し、令和2年度（2020年度）対比665%の47tを見込みます。

また、現在の消費動向を踏まえ、生食用無核品種の栽培面積比率を全体の100%まで向上させることを目標に推進します。

「ナガノパープル」は市場評価が高いことから、ぶどう栽培面積の29%を目標とします。また、「シャインマスカット」は更に産地化を推進することとし、ぶどう栽培面積の20%を目標として生産拡大を進めます。なお、赤色系大粒新品種「クイーンルージュ」の導入を検討し、ぶどうのバラエティー化を図ります。推進にあたっては、管理作業が容易な平行整枝短梢せん定栽培を基本として、新植・改植を進めるとともに、簡易雨よけ施設栽培等の検討を進めます。

また、醸造用ぶどうについては、長野県産ワインの評価が高まる中で、栽培は徐々に拡大しています。今後とも、適地適作を基本として、実需者との連携を図りつつ、高品質な原料用ぶどうの生産に向けた取り組みを推進します。

●ナガノパープルの生産振興

「ナガノパープル」は、本県オリジナル品種であること、「大玉で食味が良く無核で皮ごと食べられる黒系品種」といった他の品種にない強みを持っていることから、高価格を維持できる品種として積極的な推進を図ります。

生産上の課題となる裂果防止対策として、適正な粒数・房形・房重等にするための栽培技術及び適期収穫技術の普及指導に加え、施設化など総合的に推進します。また、粒売りや加工対応など裂果果房の特定需要の開拓にも努めます。

●シャインマスカットの生産振興

「シャインマスカット」は、需要動向を注視しつつ面積の拡大を図ることとし、糖度が高いこと（19%以上）を基本に、着色程度や房形を統一した商品供給の徹底を図ります。

また、全国的に「シャインマスカット」の栽培面積拡大が図られている現状を鑑み、関係機関・団体が連携して、生産数量の増加に伴う長期出荷に向けた体制整備や技術の確立に努めます。

④ もも

・ 推進目標

単位：a, kg, %

項 目	2020 年度現状		2030 年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
あかつき	20	1,000	50	15,000	250	1,500
なつっこ	6	300	50	12,500	833	4,166

●生産振興方針

令和12年度（2030年度）の栽培面積は、気候変動に伴う他品目からの改植が想定され、新規担い手の確保等により、令和2年度（2020年度）対比385%の100アールを見込みます。生産量は、優良品種への改植等の推進により生産性の向上を図ることで、令和2年度（2020年度）対比大幅増の27.5 tを見込みます。

品種は、県オリジナル品種の「なつっこ」導入も検討し、極晩生種（9月中旬



以降に収穫となる品種）等の比率を増やします。また、糖度の高い新たな品種を導入するとともに、「黄金桃」等の黄肉種については、生産量全体の10%を目安に導入を図り、シリーズ化を進めます。

改植により、園地の若返りを図るとともに、省力化や高品質化を推進します。さらに、凍霜害対策の徹底や結実確保対策を進め、生産の安定に努めます。

⑤ 栗

・ 推進目標

単位：a,kg,%

項 目	2020 年度現状		2030 年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
伊那栗 (丹沢・筑波)	2,000	46,000	5,000	175,000	250	380

●生産振興方針

地域特産果樹として重要な位置を占めています。需要は、地元栗菓子業者への販売が大部分を占めており、上向きに推移しています。

引き続き地元栗菓子業者等の実需者との連携のもとに、食味の良い優良品種を中心に、需要に応じた栽培面積の拡大を図るとともに、栽培管理の徹底により品質の向上と安定生産を推進します。



⑥ 柿

・ 推進目標

単位：a,kg,%

項 目	2020 年度現状		2030 年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
市田柿	100	8,000	250	20,000	250	250

●生産振興方針

干し柿は地域特産物として重要な品目です。市田柿は長野県初の地理的表示（GI※）保護制度に登録され、当町は市田柿の生産地範囲に入っています。

干し柿の需要は、消費者の健康食品志向により堅調に推移しており、「市田柿」の生産意欲は高く栽培面積は維持されています。

令和12年度（2030年度）の栽培面積は、生産者の高齢化や低位生産園の廃園等が予想されるものの、日本なし「二十世紀」からの転換等により、令和2年度（2020年度）対比250%の2.5haを見込みます。生産量は、令和2年度（2020年度）対比250%の20tを見込みます。

「市田柿」については生産量の増加に加えて、製品品質の高位平準化、衛生管理対策の徹底や地理的表示（GI）保護制度を活用したブランド化を推進し、農家組織による加工施設の整備を研究します。

⑦ ブルーベリー

・ 推進目標

単位：a,kg,%

項 目	2020 年度現状		2030 年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
ブルーベリー	170	8,000	250	12,500	147	156

● 生産振興方針

直売や摘み取り園等の観光果樹による産地の拡大を図るとともに、加工による高付加価値化を推進し収益性の向上を目指し、特産果樹として生産振興を図ります。

収量・品質の向上や生産の安定を図るため、優良品種の検討や防鳥網、低温貯蔵庫等の生産施設の整備を検討します。

生産者自らが、市場、加工業者、菓子店、飲食店等多様な消費者ニーズに対応する付加価値の高い加工品の開発及び販路の拡大に努める等の取組を促進します。

品質、出荷時期を考えて、極早生種「デューク」への品種更新を進めます。



⑧ 梅

・ 推進目標

単位：a,kg,%

項 目	2020 年度現状		2030 年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
竜峡小梅	52	2,800	50	2,000	96	71

● 生産振興方針

梅は、中山間地域の省力果樹として重要な品目です。梅加工品は、健康食品として安全・安心な国産品への一定のニーズがありますが、小粒種は安価な外国産など輸入品の流通が多いことから、今後は需要の減少が見込まれます。

中山間地域で産地化が図られていますが、近年の価格低迷により、生産量は減少傾向となっています。

生産者の高齢化により栽培面積の減少が予想されますが、省力栽培を進め、梅加工品等の地域特産品化・高付加価値化により、生産の安定を図ります。

⑨ カシス

・ 推進目標

単位：a, kg, %

項 目	2020 年度現状		2030 年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
カシス	0	0	500	15,000	—	—

●生産振興方針

我が国で栽培しているカシスは、ヨーロッパ系苗とニュージーランド系苗があります。多くはヨーロッパ系苗で種苗メーカーでも扱っています。ニュージーランド苗はアントシアニン含有量に優れていますが、県内で栽培されているカシスのうち富士見町で栽培されている「マーチソン」はニュージーランドカシスで契約栽培によって門外不出になっています。

しかし、一般社団法人日本カシス協会では、優れた機能を持つニュージーランドカシスのブランド構築と認知度を高めるため、富士見町との合意のもと今年8月に森下仁丹(株)と新日本薬業(株)に穂木の提供が承諾されました。

当町は、新日本薬業(株)から苗の提供を受け地域特産化果実として生産を進めます。当面は、県内で「マーチソン」の栽培ができるのは富士見町と当町だけになります。

4) きのこと

きのこ生産は、大型栽培施設による規模拡大が進み、現在は1法人が「なめこ」栽培を行っています。

環境面では、きのこ生産に伴う廃培地（使用済み培地）の適正処理が課題であり、適正な処分のほか、再利用や堆肥化の利活用促進が必要となっています。

流通面では、市場外取引が増加するなど益々多様化しており、実需者のニーズに即した生産・流通の取り組みが重要となっています。また、施設内の器具・蛍光灯、虫などの異物混入に注意し、「安全・安心」に対する産地としての対応が求められています。

(1) 到達目標

生産技術対策として、需要に見合った計画的な生産体制のもとに、「収量確保・ロスピン率 1%以下・A 級比率 90%以上」に向けた徹底した技術力向上を進めるとともに、生産性の高い栽培技術の普及、低コスト生産技術、省エネ・節電対策、廃培地（使用済み培地）の適正処理、GAPの推進、安全な培地原料の安定供給・使用などの生産管理を進めます。



(2) 達成指標

・推進目標

単位：万本, kg, %

項 目	2020 年度現状		2030 年度目標		対 比	
	栽培本数	生産量	栽培本数	生産量	栽培本数	生産量
なめこ	300	1,700	300	1,700	100	100

(3) 具体的な施策展開

- ① 経営安定対策として、経営管理能力の強化と資金等の効率的な活用を支援します。
- ② 生産振興対策として、次のことを積極的に進めます。
 - 生産技術対策は、高位安定生産技術や低コスト・省力生産技術を推進し、安定的な培地材料の確保や鮮度保持技術の開発を支援します。
 - 食品安全・環境保全・労働安全対策として、GAP（農業生産工程管理）の推進や安全な培地材料の使用を促進し、衛生管理の徹底や異物混入防止対策を支援します。また、廃培地（使用済み培地）の適正処理と有効利用の推進、労働安全の推進を徹底します。
 - 生産体制強化対策では、担い手の育成・支援対策の充実強化、関係機関・団体の連携支援体制の確立を目指します。
 - 需要の拡大対策は、おいしい食べ方提案による需要拡大や様々な料理用途に着目した需要拡大を促進します。また、きのこの機能性成分に着目した需要拡大等関係機関が連携して推進します。
 - 流通対策としては、商品力の向上、顧客満足度の向上による実需者確保を推進します。

5) 野菜

当町における野菜生産は、恵まれた自然や気象条件と標高差や昼夜の寒暖差が大きい立地条件を活かして、特色ある産地形成を目指します。

主要な野菜は、白ねぎ、きゅうり、トマト、アスパラガスを中心に拡大し、スイートコーン、ブロッコリー、カリフラワー、ほうれんそう、ながいも、すいか等、数多くの生産に取り組めます。

経営形態は、水稻を中心とした複合経営を進めます。販売は、市場出荷を主としていますが、直売所やイベント等での直販も積極的に推進し、多様な販売を目指します。また、生産から加工販売までを一体的に進めていく6次産業化も推進します。

(1) 到達目標

① 多様化する顧客ニーズに対応した商品と産地づくり

顧客から要望される品目・供給時期・数量を基にした栽培検討と計画生産体制づくりを進めます。供給方法についても、直送やパッケージ対応等多様な方法への対応を推進します。

② 野菜生産体制の強化と収益性向上への取り組み

省力化の推進と高性能機械等の導入を促進し、生産体制の強化と収益性の向上を目指します。

③ 気象変動や病害虫に対応できる安定生産の推進

健全な土づくりを推進するとともに、連作障害対策を積極的に進めます。また、抵抗性品種の導入や連作型適正品種の導入を検討します。また、排水対策、降雨や干ばつ対策、病害虫の総合防除、施設化の推進等により気象変動に対応した栽培技術の導入を検討します。

④ 担い手の確保や育成対策の推進

多様な担い手の確保や育成により生産基盤の強化を進めます。農作業労働力の確保と経営能力向上による安定経営の実践を推進します。

⑤ GAPの推進による安全・安心な野菜生産と環境にやさしい農業の拡大

食品の安全、労働環境、環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践できるような支援を積極的に行います。これにより、安全・安心確保対策の実践と環境にやさしい農業技術の普及を推進し、農産物生産活動に伴う廃棄物の適正処理も積極的に取り組みます。

(2) 達成指標

項目	2020年度 現状	2030年度 目標	項目設定の考え方
直売所に出荷する 野菜の栽培面積	4ha	6ha	直売所向け生産者が高齢化しているなかで、安定的に供給するための面積を確保する。

・ 推進目標

単位：a, kg, %

項目	2020年度現状		2030年度目標		対 比	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
トマト	100	130	150	195	150	150
きゅうり	192	230	200	240	104	104
すいか	144	104	150	108	104	104
白ねぎ	716	215	1,000	300	140	140
アスパラガス	369	69	400	75	109	109
スイートコーン	122	18	150	23	123	128
ブロッコリー	96	10	120	13	125	130
たまねぎ	41	21	60	30	146	143
キャベツ	74	41	100	56	135	329
ほうれんそう	1	0.1	50	7	5,000	7,000
いちご	0	0	50	20	—	—
ながいも	16	5	30	11	188	220

(3)具体的な施策展開

経営規模の拡大や経営力の向上に向け、農地の集積・集約化や省力化技術・生産コスト低減技術の普及、施設・機械の導入を支援します。

夏秋期の安定的な生産力維持のため、外国人技能実習生等を含む多様な雇用人材の確保を支援します。

また、GAP導入により品質の向上、経営改善や効率化、競争力の強化を戦略的に進めます。

①トマト

- ・ 水稲育苗後の施設の有効利用を図るための栽培を促進します。
- ・ 定年退職者に対して作付け誘導を行い、栽培面積の拡大を図ります。
- ・ 契約栽培の拡大に向けて、消費者ニーズに対応した新たな導入品種の検討を行います。
- ・ 施設化の推進と優良苗の導入により、生産拡大を図ります。
- ・ 土づくりと病害虫防除を徹底し、品質・収量の向上を図ります。



②きゅうり

- ・ 個人経営体、法人経営体へ作付け誘導し、春・夏秋・抑制の各作型を組み合わせた経営や他品目との複合経営を推進します。
- ・ 定年退職者に対して作付け誘導を行い、栽培面積の拡大を図ります。
- ・ 高単収、省力化、高品質栽培が可能である養液、養液土耕栽培の導入を進めます。
- ・ リース事業等を活用した施設化を推進します。
- ・ 病害虫総合防除対策を推進します。

③すいか

- ・ 適性の良い品種の導入と土づくり等による品質の向上を図ります。
- ・ 整枝法の組み合わせ等による省力化の推進と生産の拡大を図ります。
- ・ 小玉系品種や種無し品種の導入等による多様な販売体制の確立を目指します。

④白ねぎ

- ・ 土地利用型法人・集落営農組織等を新たな担い手として、水田を活用した契約取引による生産振興を図ります。
- ・ 他品目との組み合わせによる複合経営を推進します。



⑤アスパラガス

- ・ 水稲栽培との労力競合が少ないので、水稲との複合経営を推進し生産農家及び生産面積の拡大を図ります。
- ・ 軽量品目で取り組みやすく、定年退職者や女性を対象とした普及活動を行い、経営の補完的な品目として推進します。
- ・ 複合経営では、作業の重なる時期に、地域にある労働力を活かし適正管理ができる体制づくりを進めます。
- ・ 施設栽培を主体に推進し、長期出荷による経営安定を図ります。
- ・ 新規就農者には、早期からの経営安定のために、一年養成苗（大苗）の活用による早期多収技術を支援するとともに、病害対策のための施設化を図り、儲ける栽培技術の導入を進めます。

⑥スイートコーン

- ・ 定年退職者を中心に、他品目と組み合わせた栽培誘導を行います。
- ・ 果樹生産者の夏場の収入源としての推進を行い、生産者及び栽培面積の維持拡大を目指します。
- ・ 出荷形態についてもコンテナ出荷等、労力の軽減できる方法を推進します。

⑦ブロッコリー

- ・ 水稲中心の経営体へ転作品目として誘導を行い、新たな担い手として位置付けます。
- ・ 定年退職者や女性農業者に対しても作付け誘導を行い、定植機等の機械導入により面積の拡大を図ります。
- ・ 安定生産のための病害虫対策など栽培技術の向上を進めます。

⑧たまねぎ

- ・ 複合経営を中心に、労働力が分散する作業体系を確立し、面積の拡大を図ります。
- ・ 土地利用型法人・集落営農組織等を新たな担い手として、水田を活用した契約取引による生産振興を図ります。
- ・ 他品目との組み合わせによる複合経営を推進します。

⑨キャベツ

- ・ 土地利用型法人・集落営農組織等を新たな担い手として、水田を活用した高収益品目として契約取引による生産振興を図ります。
- ・ 盛夏どりの安定生産及び初夏・晩夏期栽培面積の拡大を促進します。
- ・ 移植機の普及による省力化を推進します。

⑩ほうれんそう

- ・ 定年退職者を中心に作付け誘導を図り、生産農家の確保を図ります。また、空きハウスを活用した冬場の作付けにより周年出荷を推進します。
- ・ 経営体当たりの作付け面積は小規模であり、他品目と組合わせた効率的安定的な経営を推進します。
- ・ 地産地消への取組を促進し、直売所での販売を積極的に推進します。
- ・ 高品質で省力的な生産を積極的に進めます。

⑪いちご

- ・ 高単収、省力化、高品質栽培が可能である養液、養液土耕栽培の導入を進めます。
- ・ 定年退職者に対し栽培誘導を行い、いちご専作経営体として経営できるよう技術研修を積極的に進めます。
- ・ 規格品は近隣の店舗や外食産業への地場流通を進め、格外品は加工用に利用して収益性の向上を目指し、継続的で安定的な環境を整備します。
- ・ 初期投資を抑制するため、空きハウスの活用を促進します。

⑫ながいも

- ・ 他野菜との組み合わせた複合経営で効率的・安定的な経営を進め、生食用の生産に加えて、加工、業務用の需要に対応した生産・販売を目指します。
- ・ 栽培面積は減少傾向にあり栽培面積維持のため、定年退職者を中心に作付け誘導を進め、栽培指導会の開催により単収の向上を図ります。
- ・ 直売施設やイベントなどでの販売を行い、地場野菜の消費拡大に努めます。

(4) 中山間地域の立地条件に適した品目選定と生産振興

- 農産物直売所への周年出荷を増やすため、定年退職者や高齢者等を中心として、中山間地域での標高差や空きハウスを活かした少量・多品目生産を進めます。
- 伝統野菜については、農産物直売所等を活用して消費者への認知度向上・販路拡大を図るとともに、種の継承と栽培技術の確立により生産拡大を進めます。

6) 畜産

畜産の競争力を強化し生産性の向上を図るため、飼養規模の拡大やICT*及びDNA情報の活用等の新たな技術の導入を推進します。

現状、当町は肉牛一貫経営農家1戸です。信州の牛肉は、信州プレミアム牛肉、信州和牛、信州アルプス牛に区分されています。信州プレミアム牛肉 ※1 など高品質な生産と収益性の高い魅力ある畜産経営の確立に向け、積極的な支援を進めます。

また、農場HACCP（ハサップ）※2 や畜産GAP（ギャップ）※3 などの導入、バイオセキュリティ対策の徹底により、消費者が共感できる畜産物の持続可能な生産体制を構築します。

※1 信州プレミアム牛肉

脂肪交雑（サシ）の等級、脂肪の風味や口溶けに影響を与えるオレイン酸の含有率の両方を県が定めた基準の数値を満たした牛肉が『信州プレミアム牛肉』

※2 農場HACCP*

畜産農場に危害要因分析・必須管理点(HACCP)の考え方を取り入れた飼養衛生管理、『畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場HACCP認証基準）』

※3 畜産GAP

畜産におけるGAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）は、農業生産活動の持続性を確保するため、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組

山羊、めん羊等の中小家畜や養蜂については、山間地域における飼育を推進し、荒廃農地等を再生・活用した個性的な畜産物生産を進めます。

(1) 到達目標

① 先端技術の導入と生産性の向上による特徴ある畜産物の生産

● 共通事項

- ・ 家畜保健衛生所の病性鑑定や立入指導により、生産性阻害要因になる慢性疾病対策を推進します。
- ・ 粗飼料、飼料用米、稲WCS等自給飼料の生産拡大と作業の外部化を促進します。
- ・ 地域固有のエコフィード*の活用により地域循環型の家畜生産を進めます。
- ・ たい肥生産情報の提供等により耕畜連携を進めます。

●肉用牛

- ・ DNA情報、体外受精卵移植技術等を活用し、高い遺伝能力をもつ肉用牛の効率的な生産を進め、「信州プレミアム牛肉」の生産拡大を図ります。
- ・ ICT*等を活用した繁殖管理システムの導入を支援し、生産性の向上に向け分娩間隔の短縮、分娩事故の低減等を進めます。
- ・ DNA情報の活用により産肉能力の高い優良繁殖雌牛の確保を促進します。

●特用家畜

- ・ 山間地域を中心に中小家畜（山羊、めん羊）の飼育を推進し、個性的な畜産物生産を進めます。
- ・ 養蜂については、衛生管理の徹底と適正な飼養管理のための指導・助言を行い、荒廃農地等を再生・活用した蜜源の確保を支援し、新規小規模養蜂家の育成を進めます。



② 国際規格の導入等による持続可能な畜産の推進

- ・ 農場HACCP*、畜産GAPの取得を推進し、「食の安全」、「環境保全」、「労働の安全」に対する意識や生産性の向上を図るとともに、これらの取組を積極的に情報発信し、消費者と実需者の信頼を高めます。
- ・ アニマルウェルフェア（快適性に配慮した家畜の飼養管理）の導入と動物用医薬品に過度に頼らない畜産物の生産を進めます。
- ・ 施設屋根を活かした太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入により、環境と調和した飼養管理を推進します。
- ・ 地域との調和を図るため、家畜排せつ物の適正管理、臭気対策、畜舎の美化等環境に配慮した取組を進めます。

③ 魅力ある経営とゆとりの創出

- ・ 耕種農家と連携した自給飼料の生産拡大を促進し、生産コスト・労働時間の削減や収益性の向上に向けた施設整備などを支援し、生産基盤の強化を図ります。
- ・ 作業の外部化により生まれた時間を活用し、飼養頭数や自給飼料作付面積の拡大による経営安定を進めます。
- ・ 自家原料を活かした食肉販売や加工品製造等の6次産業化を支援します。

④ バイオセキュリティ*対策の徹底

- ・ 飼養衛生管理基準の遵守による家畜伝染病の侵入防止と生産性向上対策を進めます。

- ・ 特定家畜伝染病の発生に備え、家畜保健衛生所を中心とした防疫演習による対応力の向上を図るとともに、PDCAサイクル※による迅速かつ適切な防疫体制の強化を図ります。
- ・ 初動防疫に必要な防疫資材の備蓄を継続的に実施します。
- ・ 家畜伝染病のリスクと対策について、広報やホームページで情報提供することにより、町民の理解を深めます。

⑤ 消費者の信頼を得る畜産物の安全性確保

● GAPの推進による畜産物の安全性確保

- ・ 畜産物や労働の安全性確保に向け、GAP手法を用いた生産工程管理の導入を進めます。

● 農場HACCP※等の推進による生産物の安全性確保

- ・ 新たな基準を付加した「信州あんしん農産物（牛肉）生産農場」の認定を活用し、安全・安心を担保し、消費の拡大につなげます。
- ・ 農場HACCPの導入を進め、畜産物の安全性の向上を促進します。
- ・ 生産履歴、流通情報の開示を推進し、消費者に安全・安心を提供します。

● 動物用医薬品・家畜飼料の適正使用の推進

- ・ 県と連携し、動物用医薬品の適正な取扱いを指導します。

● 人獣共通感染症の発生防止

- ・ 家畜保健衛生所を中心に定期的に農場へ立ち入り、食中毒の原因となる腸管出血性大腸菌 O157やサルモネラ等の検査や衛生管理を徹底し、より安全な畜産物の生産を推進するとともに、消費者への生産・流通情報の発信を進めます。

(2) 達成指標

・ 達成指標

項 目	2020 年度現状	2030 年度目標	項目設定の考え方
肉牛の生産頭数	10頭／年	25頭／年	一貫経営により優良繁殖雌牛を確保し、品質の高い牛肉の生産を促進する。

①肉用牛

- ・ ICT※ の活用等による生産性の向上や受精卵移植技術の活用による優良子牛の増産に取り組みます。DNA解析を活用した優良な繁殖雌牛の選抜・導入を促進し、優良種畜の確保に取り組みます。
- ・ 経営規模拡大の場合、労働力や投資能力のほか自給飼料生産能力や家畜排せつ物処理能力等が制限要因となる場合もあるため、個の経営実態や課題に即した支援を行います。
- ・ 収益性の向上のためには、経営規模を一定規模以上に拡大することが必要であることから、経営の中長期的な視点に立ち、過度な設備投資等に留意しつつ、計画的に飼養規模の拡大を図ります。

- ・良質な粗飼料の確保や適正な栄養管理に基づく飼料給与により飼料効率の向上を図るとともに、きめ細かな繁殖・飼養管理を行うことで、分娩間隔の短縮、分娩事故の低減及び供用期間の延長等による生産性の向上を図ります。
- ・法人化が可能な経営体では、法人化等を通じ意思決定に係る責任者や手続きを明確化するなど高度な経営判断に対応した体制を整備します。法人化を行わない経営体においても飼養管理ソフトや複式簿記等の活用により、計画的かつ効率的な経営に向けた体制づくりを進めます。
- ・畜産での就業を目指す女性も多いことから、女性の意欲と能力が十分発揮できる環境を整えるため経営への参画を推進します。また、「農業女子」等の活動も活発化していることから地域内外のネットワークなど幅広い活動への参加を促進します。
- ・家畜伝染病は、肉用牛経営のみならず、地域経済にも甚大な影響を及ぼします。また、慢性疾病も生産量の減少や生産費の上昇につながることから、生産性の向上を図るためにも適切な処置を施すとともに、これを未然に防ぐための予防対策を推進します。
- ・畜産業が将来にわたり健全に発展していくためには、家畜排せつ物の管理の適正化を図るとともに、その利用を一層促進することに加え、地域と調和した畜産経営を確立します。
- ・良質な動物性たんぱく質の供給のほか、地域資源の循環による国土の保全や景観形成、土壌へのたい肥の還元による資源循環の促進に資するものであることから、畜産や畜産物に対する正しい理解の醸成のための取組を進めます。

②特用家畜

山間地域を中心に山羊、めん羊の飼育を推進し、遊休地の除草対策等に活用し、個性的な畜産物生産を進めます。養蜂については、衛生管理の徹底と適正な飼養管理のための指導・助言を行い、荒廃農地等を再生・活用した蜜源の確保を支援し、農薬危害防止を促進します。

③自給飼料

- ・水田のフル活用による、飼料用米・WCS等飼料作物の作付面積拡大を推進します。
- ・WCSについては専用品種の導入を推進し、単収を向上させるとともに作付面積の増加を促進します。
- ・飼料用米の生産、利用を図るため、給与技術を確立すると共に、関係機関の連携により保管・利用施設を検討します。
- ・エコフィード※については、関係機関の連携により未利用資源の把握と利活用を研究します。



7) 水産

飯島町の代表ブランド魚である「アルプスサーモン」は、信州を代表するブランド魚である「信州サーモン」がニジマスとブラウントラウトを交配した養殖専用品種に対し、三倍体のニジマスです。中央アルプスの清流で育ち、水温が低く病原菌が殆ど住めないため薬品類の使用無しに養殖しています。アルプスサーモンの増産と安定的な供給を推進するとともに、消費拡大を図ります。

また、河川湖沼においては、漁業者や観光関係者等が連携して行う「魅力ある釣り場づくり」を核とした地域の活性化を支援するとともに、外来魚駆除対策等の漁獲量の回復に向けた取り組みを推進します。

(1) 到達目標

- ①アルプスサーモンについて、稚魚の安定供給と出荷魚の高品質安定生産技術の確立を図ります。
- ②調理師やシェフの助言を生産現場にフィードバックし、出荷魚の品質向上を図り、加工品の開発、販路開拓等の取り組みを支援します。
- ③遊漁者ニーズに対応した魅力ある漁場づくりを推進し、漁業協同組合と観光業者、住民等が連携した漁場活用を支援します。

(2) 達成指標

・ 達成指標

項目	2020年度現状	2030年度目標	項目設定の考え方
アルプスサーモンの生産量	70t	80t	需要に対応するため、養魚業者と協力して増産する。

(3) 具体的な施策展開

- ① 実需者のニーズに応えるアルプスサーモンの高品質で安定的な生産
 - アルプスサーモンの需要増に対応するため、稚魚供給量を増やし安定的に供給する体制を構築するとともに、品質の安定化に向けた研究を進め、ブランド力の向上を図ります。
- ②アルプスサーモンの利用拡大に向けた加工品の開発と販路の拡大
 - 宿泊施設、飲食店などの需要に対応するため、品質を保持したまま販売できるように、冷凍加工技術の開発を進め、利用を促進します。
 - 養殖業者と調理師会等の実需者団体の連携強化を支援し、アルプスサーモンの認知度向上を図るとともに、他の養殖魚や河川・湖沼で漁獲される魚と併せて販路を拡大するためのPR活動等を実施し、地消地産を進めます。



アルプスサーモン

- 鮮度の高い養殖魚が手に入る生産地ならではの優位性を活かした加工品開発を推進します。

③釣りを核とした地域活性化につなげる魅力ある漁場づくり

- 釣り（場）を地域の観光資源として捉え、漁業協同組合、観光関係者等が連携し、魅力ある釣り場の構築や観光サービスの提供など、釣り客を地域に呼び込むための取り組みを支援します。
- 漁業協同組合等が行う外来魚やカワウ等の食害防止への取り組みを支援するとともに、外来魚駆の普及に取り組みます。
- カワウやサギ等の食害防止への取り組みを強化し、天竜川の大アユ復活を目指し、釣れる漁場の復活に向け取り組みます。

2 目指すべき経営類型（代表的な経営類型とする）

1) 作物別に、所得金額別に、個の経営体、組織経営体ごとに記述

●土地利用型作物

(1) 家族経営

①水稲+そば+ネギ

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 水稲 …………… 450 a そば …………… 450 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,011 万円 【所得】 …… 245 万円	【経営規模】 水稲 …………… 800 a そば …………… 800 a 白ねぎ ………… 20 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,985 万円 【所得】 …… 491 万円	【経営規模】 水稲 …………… 1,600 a そば …………… 1,600 a 白ねぎ ………… 50 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 ………… 3 人 【粗収益】 … 4,064 万円 【所得】 …… 1,010 万円

②水稲+大豆+ネギ

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 水稲 …………… 400 a 大豆 …………… 400 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,036 万円 【所得】 …… 262 万円	【経営規模】 水稲 …………… 700 a 大豆 …………… 700 a 白ねぎ ………… 20 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 2,002 万円 【所得】 …… 514 万円	【経営規模】 水稲 …………… 1,400 a 大豆 …………… 1,400 a 白ねぎ ………… 50 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 ………… 3 人 【粗収益】 … 4,098 万円 【所得】 …… 1,056 万円

(2) 法人経営

① 水稲+そば+作業受託

経営所得 2,500 万円	
【経営規模】	
水稲	50 ha
そば	30 ha
作業受託	20 ha
【労働力】	
常時雇用	5人
【粗収益】 1億830万円	
【所得】 …… 2,475万円	

② 水稲+大豆+作業受託

経営所得 2,500 万円	
【経営規模】	
水稲	50 ha
大豆	30 ha
作業受託	20 ha
【労働力】	
常時雇用	5人
【粗収益】 1億796万円	
【所得】 …… 2,465万円	

③ 主食米+加工米+作業受託

経営所得 3,000 万円	
【経営規模】	
主食米	50 ha
加工米	30 ha
作業受託	20 ha
【労働力】	
常時雇用	5人
【粗収益】 1億3,359万円	
【所得】 …… 3,176万円	

● 果樹

① りんご専作

経営所得 250 万円	
【経営規模】	
ふじ（普通）	30 a
つがる（新矮化）	10 a
秋映（新矮化）	10 a
シナノスイート （新矮化）	10 a
シナノゴールド （新矮化）	10 a
【労働力】	
家族	2人
【粗収益】 …… 834万円	
【所得】 …… 246万円	

経営所得 500 万円	
【経営規模】	
ふじ（普通）	30 a
ふじ（高密植）	60 a
つがる（新矮化）	10 a
秋映（新矮化）	10 a
シナノスイート （新矮化）	10 a
シナノゴールド （新矮化）	10 a
【労働力】	
家族	2人
臨時雇用	1人
【粗収益】 …… 1,893万円	
【所得】 …… 529万円	

経営所得 1,000 万円	
【経営規模】	
ふじ（普通）	30 a
ふじ（高密植）	60 a
つがる（新矮化）	30 a
秋映（新矮化）	40 a
シナノスイート （新矮化）	40 a
シナノゴールド （新矮化）	40 a
【労働力】	
家族	2人
臨時雇用	2人
【粗収益】 …… 3,135万円	
【所得】 …… 968万円	

②ぶどう専作

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
<p>【経営規模】 シャインマスカット 20a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 448 万円 【所得】 …… 259 万円</p>	<p>【経営規模】 シャインマスカット 30 a 巨峰 …………… 10 a ナガノパープル …… 10 a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 961 万円 【所得】 …… 494 万円</p>	<p>【経営規模】 シャインマスカット 50 a 巨峰 …………… 40 a ナガノパープル …… 30 a ピオーネ …………… 20 a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 2,420 万円 【所得】 …… 1,059 万円</p>

③ぶどう専作2

経営所得 250 万円	経営所得 350 万円	経営所得 500 万円
<p>【経営規模】 シャインマスカット 10 a ナガノパープル …… 10 a 醸造用ブドウ …… 50 a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 544 万円 【所得】 …… 245 万円</p>	<p>【経営規模】 シャインマスカット 15 a ナガノパープル …… 10 a 醸造用ブドウ …… 100 a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 796 万円 【所得】 …… 342 万円</p>	<p>【経営規模】 シャインマスカット 20 a ナガノパープル …… 10 a 醸造用ブドウ …… 200 a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人 臨時雇用 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 1,188 万円 【所得】 …… 470 万円</p>

④ブルーベリー複合

経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
<p>【経営規模】 ブルーベリー …… 60 a 川中島白桃 …… 50 a 水稲 …………… 30 a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 1,099 万円 【所得】 …… 485 万円</p>	<p>【経営規模】 ブルーベリー …… 60 a 川中島白桃 …… 50 a ふじ（新矮化） 50 a 水稲 …………… 30 a</p> <p>【労働力】 家族 …………… 2人 臨時雇用 …………… 2人</p> <p>【粗収益】 …… 2,221 万円 【所得】 …… 1,000 万円</p>

⑤もも+りんご

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
<p>【経営規模】 川中島白桃 …… 20 a あかつき …… 10 a ふじ（新矮化）…10 a シナノスイート （新矮化）… 10 a</p> <p>【労働力】 家族 …… 2 人</p> <p>【粗収益】 …… 710 万円 【所得】 …… 243 万円</p>	<p>【経営規模】 川中島白桃 ……30 a あかつき ……20 a ふじ（新矮化）…30 a シナノスイート （新矮化）…10 a シナノゴールド （新矮化）…10 a</p> <p>【労働力】 家族 …… 2 人</p> <p>【粗収益】 … 1,453 万円 【所得】 …… 504 万円</p>	<p>【経営規模】 川中島白桃 ……50 a あかつき ……40 a ふじ（新矮化）…65 a シナノスイート （新矮化）…20 a シナノゴールド （新矮化）… 20 a</p> <p>【労働力】 家族…… 2 人 臨時雇用…… 2 人</p> <p>【粗収益】 … 2,857 万円 【所得】 …… 997 万円</p>

⑥干し柿複合

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
<p>【経営規模】 干し柿 ……20 a あかつき …… 10 a ふじ（新矮化）… 10 a 水稻 …… 100 a</p> <p>【労働力】 家族 …… 2 人</p> <p>【粗収益】 … 735 万円 【所得】 ……253 万円</p>	<p>【経営規模】 干し柿 …… 40 a あかつき …… 20 a ふじ（新矮化）… 10 a シナノスイート （新矮化）… 10 a 水稻 …… 200 a</p> <p>【労働力】 家族 …… 2 人 臨時雇用 …… 1 人</p> <p>【粗収益】 … 1,537 万円 【所得】 …… 506 万円</p>	<p>【経営規模】 干し柿 …… 80 a あかつき …… 30 a ふじ（新矮化）…50 a シナノスイート （新矮化）…20 a 水稻 ……400 a</p> <p>【労働力】 家族…… 2 人 臨時雇用…… 2 人</p> <p>【粗収益】 … 3,061 万円 【所得】 …… 1,001 万円</p>

⑦干し柿+栗+水稻

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 干し柿 …………… 20 a 栗 …………… 20 a 川中島白桃 …… 10 a ふじ（新矮化）… 10 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 638 万円 【所得】 …… 257 万円	【経営規模】 干し柿 …………… 50 a 栗 …………… 50 a 川中島白桃 …… 15 a ふじ（新矮化） 10 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 1,190 万円 【所得】 …… 492 万円	【経営規模】 干し柿 …………… 80 a 栗 …………… 100 a 川中島白桃 …… 35 a ふじ（新矮化）… 30 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …… 2 人 【粗収益】 …… 2,356 万円 【所得】 …… 971 万円

●野菜

①キュウリ

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 半促成キュウリ… 10 a 夏秋露地キュウリ 10 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 762 万円 【所得】 …… 246 万円	【経営規模】 半促成キュウリ … 20 a 夏秋露地キュウリ 20 a 水稻 …………… 10 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 1,539 万円 【所得】 …… 495 万円	【経営規模】 半促成キュウリ… 40 a 夏秋露地キュウリ 40 a 水稻 …………… 30 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …… 1 人 【粗収益】 …… 3,094 万円 【所得】 …… 993 万円

②トマト

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 トマト（雨よけ）…30 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 1,063 万円 【所得】 …… 285 万円	【経営規模】 トマト（雨よけ）…30 a キュウリ（夏秋露地）15 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 1,399 万円 【所得】 …… 527 万円	【経営規模】 トマト（雨よけ）…45 a キュウリ（夏秋露地）30 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …… 1 人 【粗収益】 …… 2,620 万円 【所得】 …… 1,006 万円

③白ねぎ

経営所得 250 万円	経営所得 400 万円	経営所得 600 万円
【経営規模】 ネギ ……………30 a ピーマン ……………20 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,011 万円 【所得】 …… 245 万円	【経営規模】 ネギ …………… 60 a ピーマン …………… 25 a カリフラワー … 20 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,230 万円 【所得】 …… 396 万円	【経営規模】 ネギ …………… 80 a ピーマン …………… 45 a カリフラワー … 20 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …………… 1 人 【粗収益】 … 1,847 万円 【所得】 …… 604 万円

④アスパラガス

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 850 万円
【経営規模】 アスパラガス … 25 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 572 万円 【所得】 …… 231 万円	【経営規模】 アスパラガス … 50 a 水稲 …………… 50 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,220 万円 【所得】 …… 477 万円	【経営規模】 アスパラガス … 90 a 水稲 …………… 50 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …………… 1 人 【粗収益】 … 2,135 万円 【所得】 …… 847 万円

●花き

①シンビジウム

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 シンビジウム …… 70 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,960 万円 【所得】 …… 248 万円	【経営規模】 シンビジウム … 140 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 3,942 万円 【所得】 …… 496 万円	【経営規模】 シンビジウム … 280 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …………… 1 人 【粗収益】 … 7,840 万円 【所得】 …… 992 万円

②新鉄砲ゆり

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 新鉄砲ゆり …… 30 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 567 万円 【所得】 …… 241 万円	【経営規模】 新鉄砲ゆり …… 65 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …… 2 人 【粗収益】 …… 1,229 万円 【所得】 …… 522 万円	【経営規模】 新鉄砲ゆり …… 130 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …… 3 人 【粗収益】 …… 2,457 万円 【所得】 …… 1,044 万円

③バラ

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 バラ …………… 25 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 1,800 万円 【所得】 …… 262 万円	【経営規模】 バラ …………… 50 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …… 1 人 【粗収益】 …… 3,600 万円 【所得】 …… 524 万円	【経営規模】 バラ …………… 100 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …… 2 人 【粗収益】 …… 7,200 万円 【所得】 …… 1,048 万円

④アルストロメリア

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 アルストロメリア 30a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 2,268 万円 【所得】 …… 261 万円	【経営規模】 アルストロメリア 60a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 4,536 万円 【所得】 …… 522 万円	【経営規模】 アルストロメリア 120a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 9,072 万円 【所得】 …… 1,044 万円

⑤カーネーション

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 カーネーション… 20 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,350 万円 【所得】 …… 249 万円	【経営規模】 カーネーション… 40 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 2,700 万円 【所得】 …… 498 万円	【経営規模】 カーネーション… 80 a 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 5,400 万円 【所得】 …… 996 万円

●畜産

黒毛和牛一貫

経営所得 250 万円	経営所得 500 万円	経営所得 1,000 万円
【経営規模】 肥育牛 …………… 18 頭 繁殖雌牛 …………… 10 頭 (年間出荷) …… 6 頭 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 …… 976 万円 【所得】 …… 278 万円	【経営規模】 肥育牛 …………… 33 頭 繁殖雌牛 …………… 18 頭 (年間出荷) …… 11 頭 【労働力】 家族 …………… 2 人 【粗収益】 … 1,789 万円 【所得】 …… 509 万円	【経営規模】 肥育牛 …………… 66 頭 繁殖雌牛 …………… 35 頭 (年間出荷) …… 22 頭 【労働力】 家族 …………… 2 人 臨時雇用 …………… 1 人 【粗収益】 … 3,579 万円 【所得】 …… 1,018 万円

3 地区ごとの農業振興方針

当町は、全国に先駆けて組織営農に取り組み、トップレベルの評価を得ています。今後は、組織営農を更に安定したものとするため、リーダーの育成や水田フル活用ビジョンの実質化に取り組む、新たな事業展開を目指します。

また、園芸作物生産の担い手として、新規就農者や認定農業者などの個別経営体の育成や資質の向上についても積極的に推進します。

- 1) 飯島地区は、農用地面積が広く現状でも担い手不足の状況にあります。そこで、一般社団法人飯島地区営農組合は、作業の取りまとめや農地の団地化を進めるほか、畦畔の草刈りや水管理を担うグループを育成して支援を進める等、(株)いいじま農産との役割分担と連携の強化により、飯島地区農業の継続を図ります。また、新たな農業法人の育成を進めます。
- 2) 田切地区は、一般社団法人田切の里営農組合と(株)田切農産の連携を基本として、当分の間、地区の農業と農用地は保全できる見込みです。そこで、一般社団法人田切の里営農組合は、作業の取りまとめや農地の団地化を進めるほか、畦畔の草刈りや水管理の支援を行う等、(株)田切農産との役割分担と連携の強化により田切地区農業の継続を図ります。また、新たな目的による担い手の育成を進めます。
- 3) 本郷地区は、一般社団法人本郷地区営農組合と(株)本郷農産の連携を強化することにより、当分の間、地区の農業と農用地は保全できる見込みです。そこで、一般社団法人本郷地区営農組合は、作業の取りまとめや農地の団地化を進めるほか、畦畔の草刈りや水管理を担うグループを育成して支援を進める等、(株)本郷農産との役割分担と連携の強化により、本郷地区農業の継続を図ります。また、新たな目的による担い手の育成を進めます。
- 4) 七久保地区は、一般社団法人七久保地区営農組合と(有)水緑里七久保の連携を強化することにより、当分の間、地区の農業と農用地を保全できる見込みです。そこで、一般社団法人七久保地区営農組合は、作業の取りまとめや農地利用の団地化を進めるほか、畦畔の草刈りや水管理を担うグループを育成して支援を進める等、(有)水緑里七久保との役割分担と連携の強化により、七久保地区農業の継続を図ります。課題により、本郷地区営農組合との連携も検討します。また、新たな目的による担い手の育成を進めます。

